

2025年3月期 決算補足説明資料

2025年5月9日

1. 2025年3月期 通期 決算概要

2. 2026年3月期 通期 業績予想

3. 今後の展望と中期経営計画の進捗

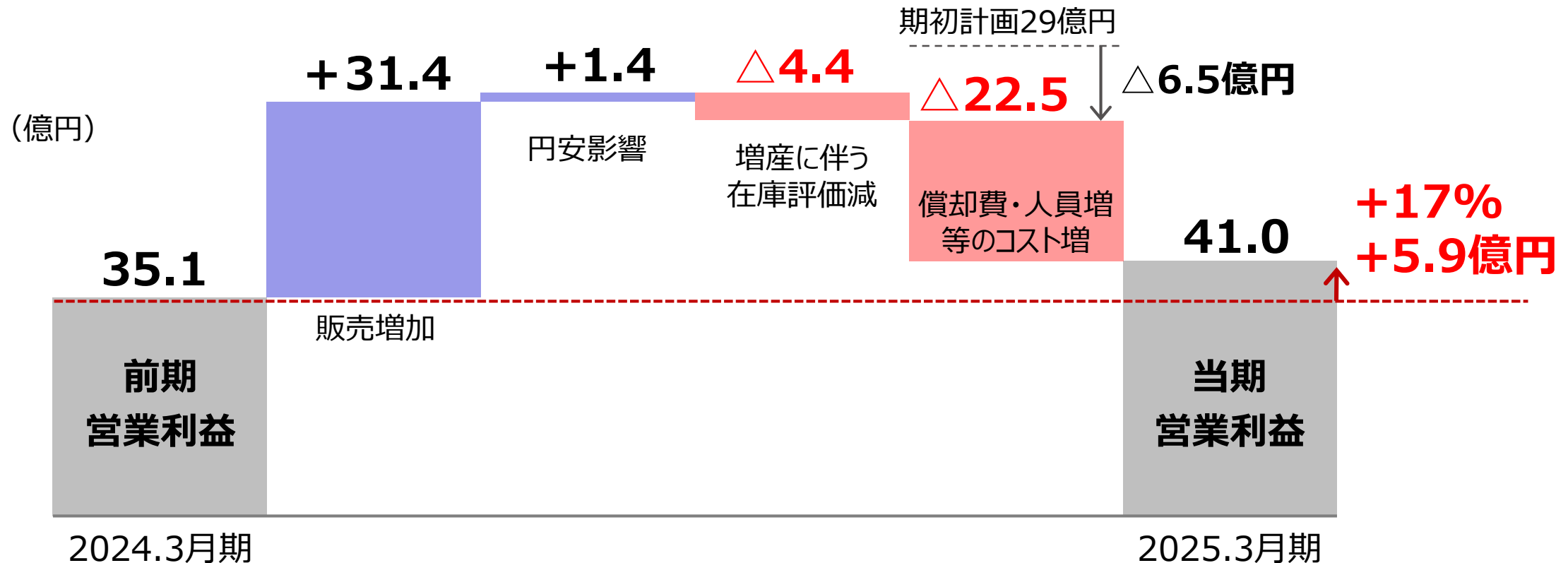
4. サステナビリティ活動

- 売上高は、生成AI用途の需要増加を背景に、先端半導体向け材料の売上が拡大し、386.6億円、前期比+21%の大幅増収。
- 営業利益は、新設備や人員増により増加した固定費を、売上増加により吸収し、41億円、同+17%の増益。
- 業績予想比では、売上高は予想値通り。営業利益は増加コストの抑制に努め、+14%の超過。
- 純利益は、賃上げ促進税制と設備投資促進税制などの法人税特別控除により+31%の超過達成。

	2024.3月期 実績 (億円)	2025.3月期 実績	前期比		2025.3月期 業績予想	業績予想比	
			増減額	増減率		増減額	増減率
売上高	319.5	386.6	+67.0	+21%	382.0	+4.6	+1%
営業利益	35.1	41.0	+5.9	+17%	36.0	+5.0	+14%
経常利益	33.9	39.9	+6.0	+18%	35.0	+4.9	+14%
純利益	23.9	32.7	+8.8	+37%	25.0	+7.7	+31%
1株当たり純利益	301円	413円					
期中平均為替レート	¥144/\$	¥153/\$					

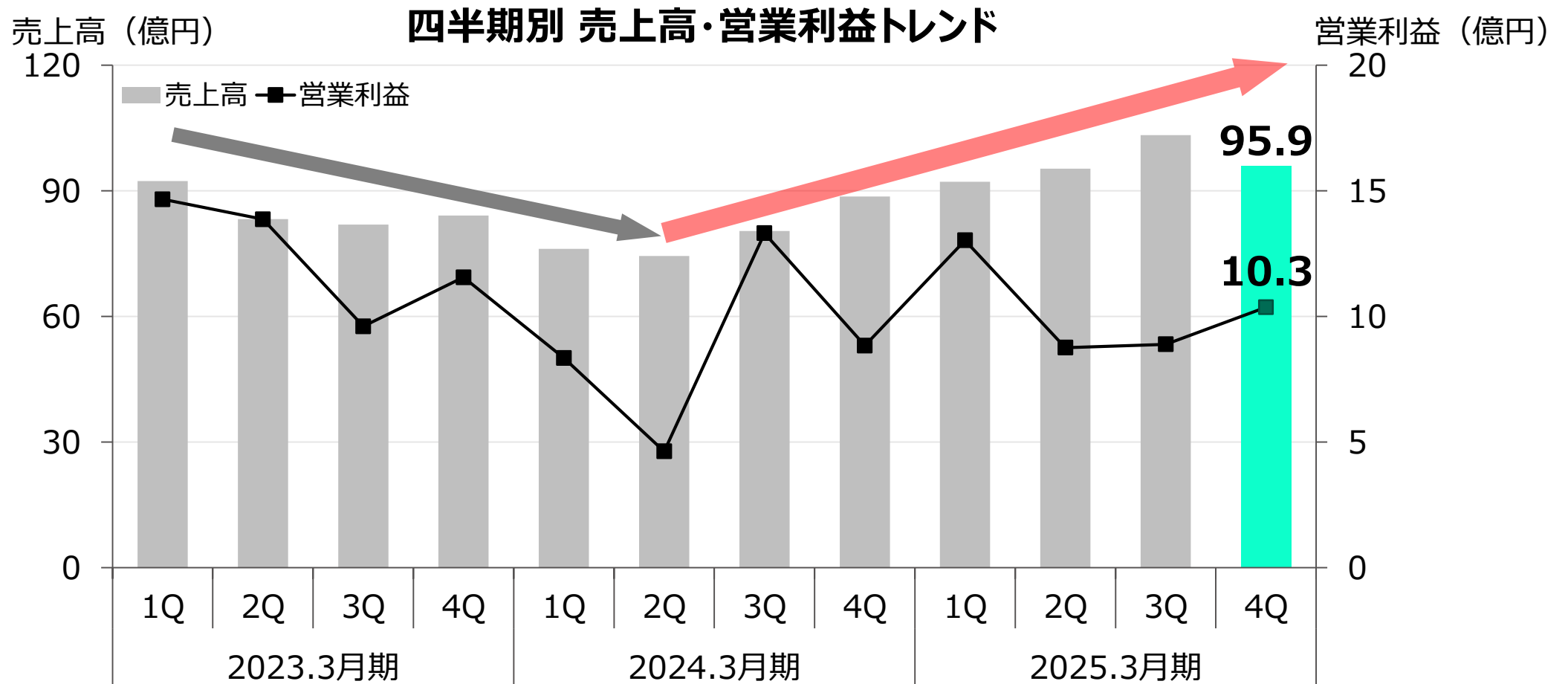
営業利益 前期比の増減要因

- 販売増加により31.4億円の増益効果、増産に伴い原価は低減。
- 今後の供給拡大に向けた新設備の完成や人員増により22.5億円の固定費増加。
- これらの費用増を吸収し、営業利益は41億円、前期比+17%の増益。

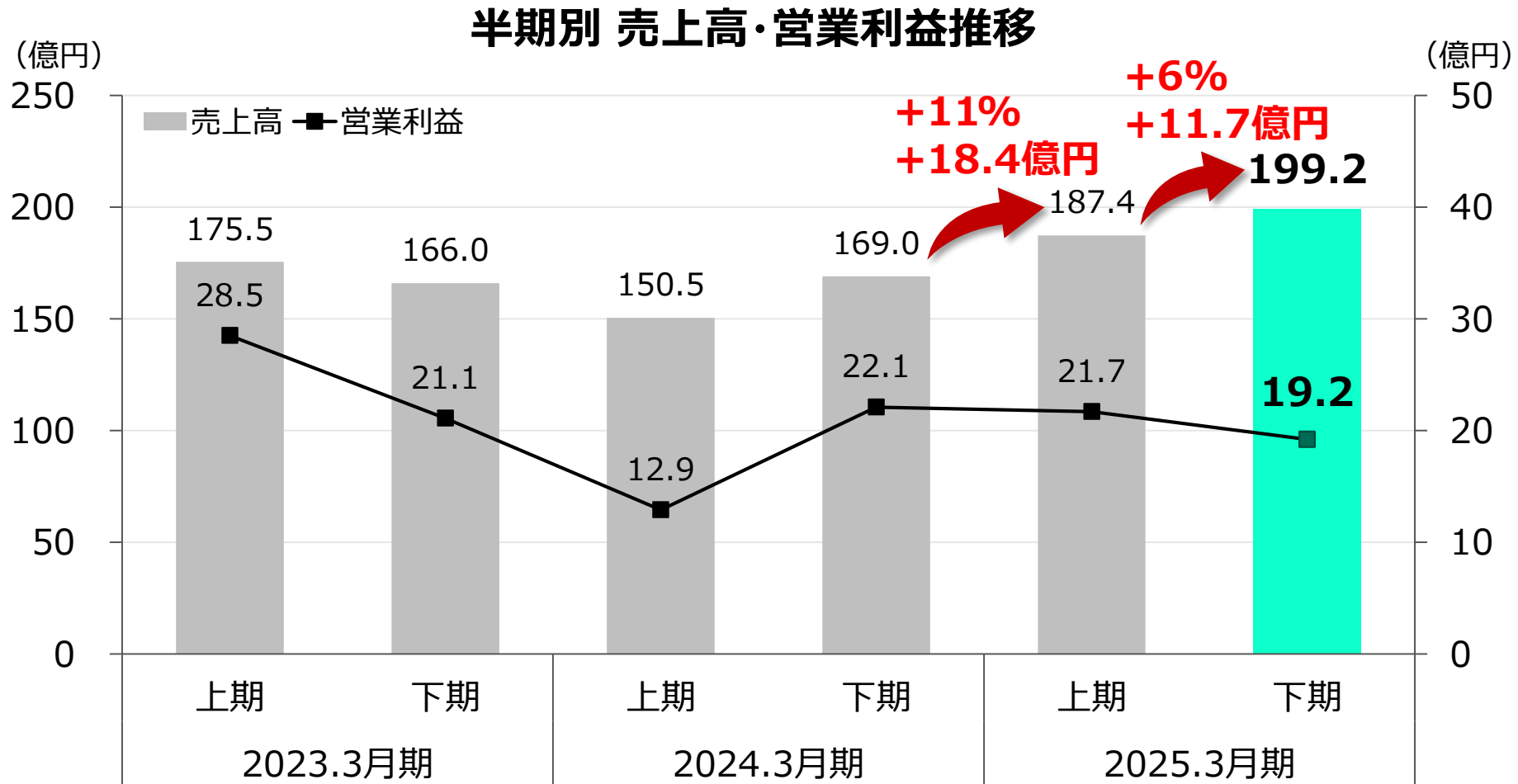


四半期別 売上高・営業利益トレンド

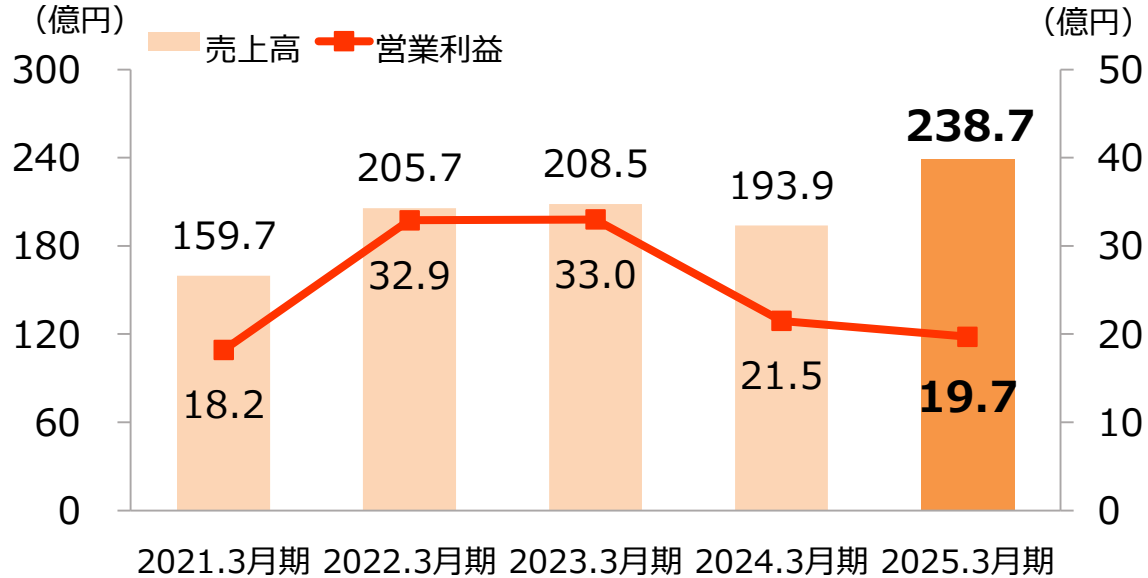
- 四半期売上高は24年3月期 2Qを底に反転。先端半導体向け材料の販売増加などにより拡大傾向。
- 売上拡大により、新設備の完成に伴う固定費増を吸収し、利益を確保。



- 前年下期から、売上高の拡大が継続し、**上期比で6%の増加。**
- 生産能力増強によるコストも吸収しながら、利益水準を維持。



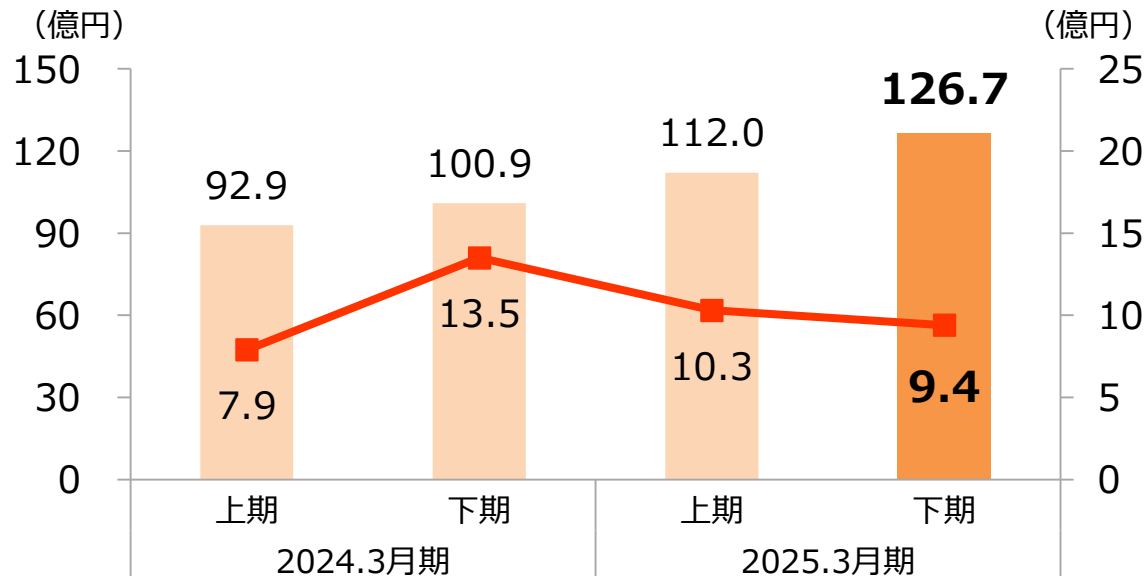
売上高・営業利益



通期売上高：238.7億円

(前期比+23%)

- 通期、半期ともに過去最高を更新。
- 半導体向け材料は、生成AI用途の需要拡大により、先端フォトリソト向け材料の売上が増加。
- ディスプレイ向け材料は、中国を中心にパネル生産が一定レベルに保たれ、販売も堅調。

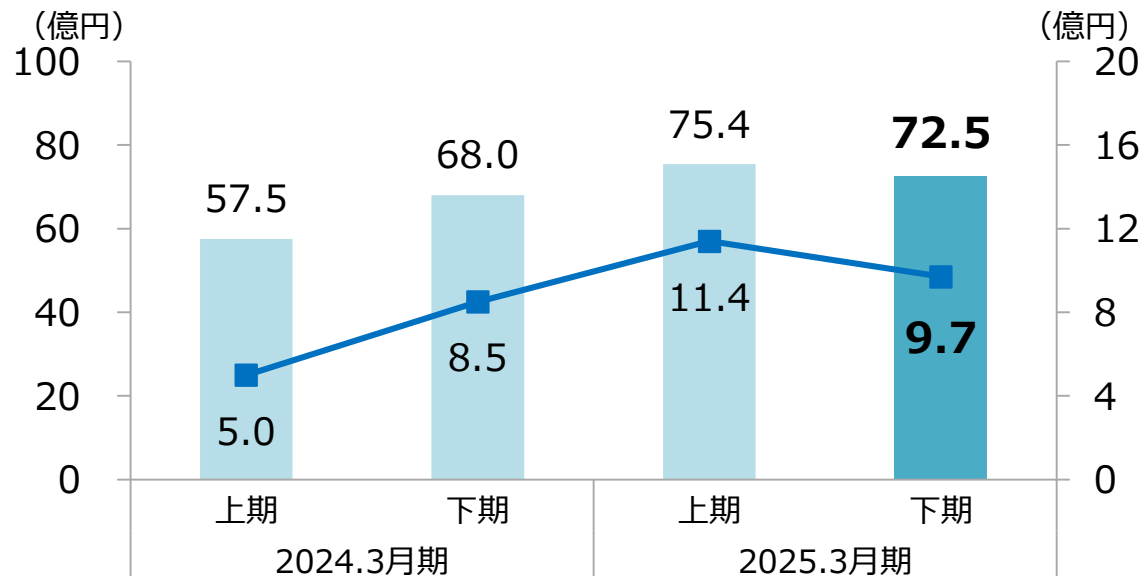
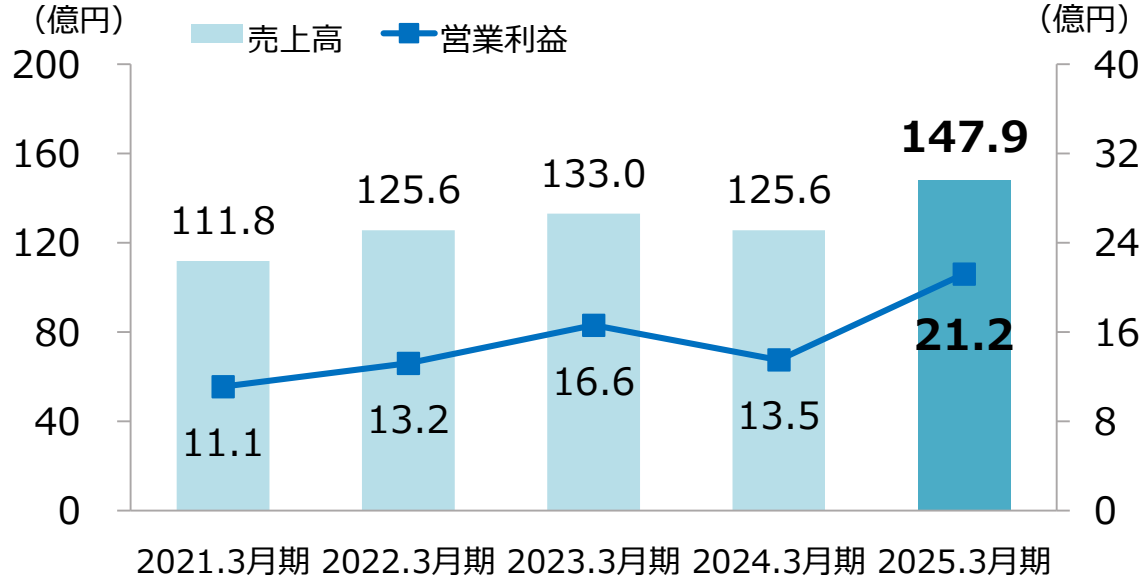


通期営業利益：19.7億円

(前期比△8%)

- 先端分野の生産・供給力拡大に向けた新規大型設備の完成により固定費が増加。増産により利益水準を維持。
- 今後は完成した設備を活用し、投資効果拡大を狙う。

売上高・営業利益



通期売上高：147.9億円

(前期比+18%)

- 通期売上高は過去最高を更新。
- 高純度溶剤は半導体・電子部品向けの需要増により売上増加。
- 香料材料関連は、海外販売が好調に推移し、増収。
- タンクターミナル事業は、国内需要は弱いものの、輸入品の増加からタンク契約率は高水準で推移。

通期営業利益：21.2億円

(前期比+57%)

- 高純度溶剤の売上増加等により増益。

2025年3月期 損益計算書

- 売上高は386.6億円（前期比+21%）の過去最高。
- 売上総利益は、売上拡大により固定費増を吸収し、粗利率を維持。
- 純利益は、賃上げと設備投資による法人税などの特別控除により前期比+37%の増益。

(億円)	2024.3月期	2025.3月期	増減額	増減率
売上高	319.5	386.6	+67.0	+21%
売上原価	243.5	296.0	+52.5	+22%
売上総利益	76.0	90.5	+14.5	+19%
販売管理費	40.8	49.5	+8.6	+21%
営業利益	35.1	41.0	+5.9	+17%
営業外収益	2.0	2.3	+0.2	+12%
営業外費用	3.2	3.3	+0.1	+4%
経常利益	33.9	39.9	+6.0	+18%
特別損益	△1.2	△1.3	+0.0	
税引前当期純利益	32.7	38.6	+5.9	+18%
法人税等合計	8.7	5.8	△2.8	△33%
当期純利益	23.9	32.7	+8.8	+37%

売上総利益率
23.8%→23.4%

賃上げ促進税制、
地域未来投資促進税制

2025年3月期 キャッシュフロー計算書

- 営業CF：67.9億円 売上拡大と増加運転資金の改善により22億円増、前期比+49%。
- 投資CF：119.7億円 中計の大型生産能力増強投資の支払が完了。
- 財務CF：51.9億円 設備投資資金の確保。

	(億円)		
	2024.3月期	2025.3月期	増減額
営業活動によるCF	45.7	67.9	+22.2
税引前当期純利益	32.7	38.6	+5.9
減価償却費	28.9	37.1	+8.1
売上債権の増減額 (+は減少)	△13.1	△1.4	+11.6
棚卸資産の増減額 (+は減少)	14.2	△7.1	△21.3
仕入債務の増減額 (+は増加)	△9.3	16.6	+26.0
その他	△7.7	△15.8	△8.1
投資活動によるCF	△75.9	△119.7	△43.8
フリー・キャッシュフロー	△30.2	△51.7	△21.5
財務活動によるCF	35.9	51.9	+15.9
現金及び現金同等物に係る換算差額	△1.8	△0.6	+1.2
現金及び現金同等物の増減	3.9	△0.4	△4.4
現金及び現金同等物の期末残高	36.4	35.9	△0.4

増加率
前期比+49%

運転資金を改善
+16.3億円

2025年3月期 貸借対照表

- 売上拡大による増加運転資金を改善し、△8.1億円。(=売上債権+棚卸資産-仕入債務)
- 生産能力増強投資により、有形固定資産は+38.3億円、借入金は+57.2億円。
- 純利益の増加により、株主資本は+29.6億円。自己資本比率は37.7%(+1.0pt)。

	2024.3月末	2025.3月末	増減額		2024.3月末	2025.3月末	増減額
流動資産	226.8	240.6	+13.8	負債	376.9	410.3	+33.4
現金預金	36.4	35.9	△0.4	仕入債務	40.0	56.7	+16.6
売上債権	72.2	73.7	+1.4	借入金	220.0	277.3	+57.2
棚卸資産	103.3	110.5	+7.1	その他	116.7	76.2	△40.4
その他	14.7	20.4	+5.7				
固定資産	368.3	417.9	+49.5	純資産	218.2	248.3	+30.0
有形固定資産	338.6	377.0	+38.3	株主資本	216.3	245.9	+29.6
無形固定資産	15.7	25.9	+10.1	その他	1.9	2.3	+0.4
投資・その他	13.9	15.0	+1.0				
資産合計	595.1	658.6	+63.4	負債・純資産合計	595.1	658.6	+63.4

1. 2025年3月期 通期 決算概要

2. 2026年3月期 通期 業績予想

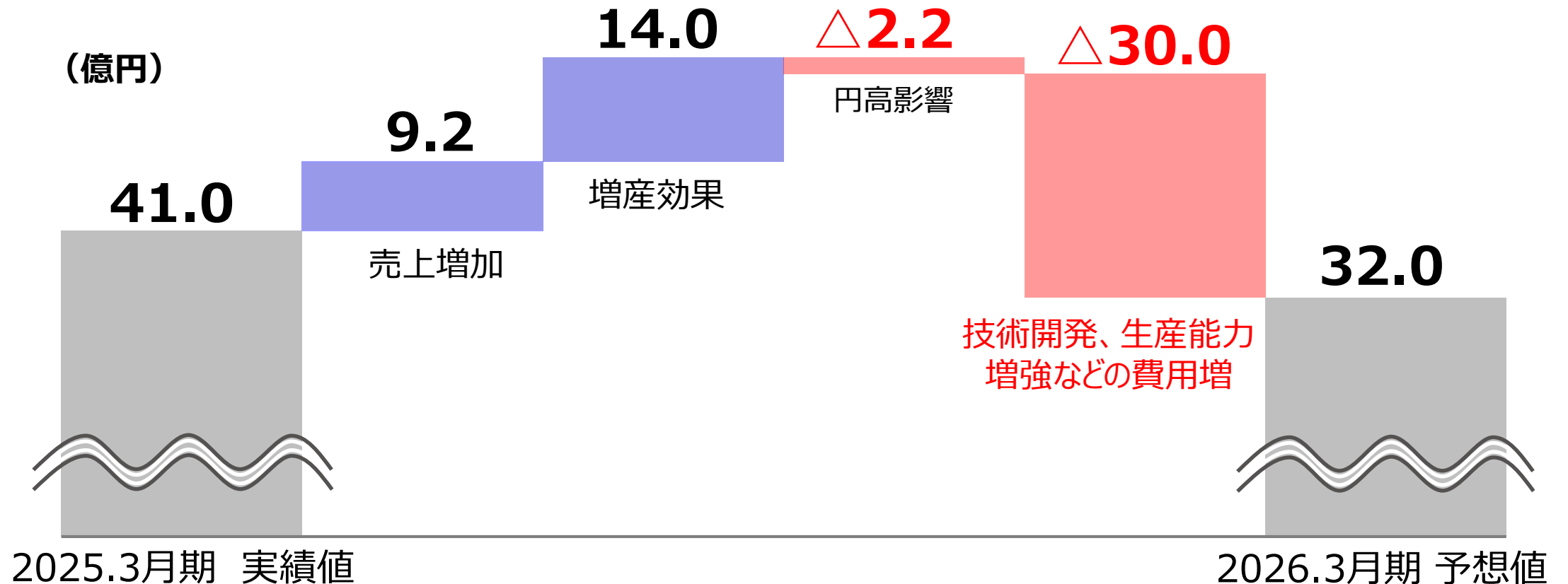
3. 今後の展望と中期経営計画の進捗

4. サステナビリティ活動

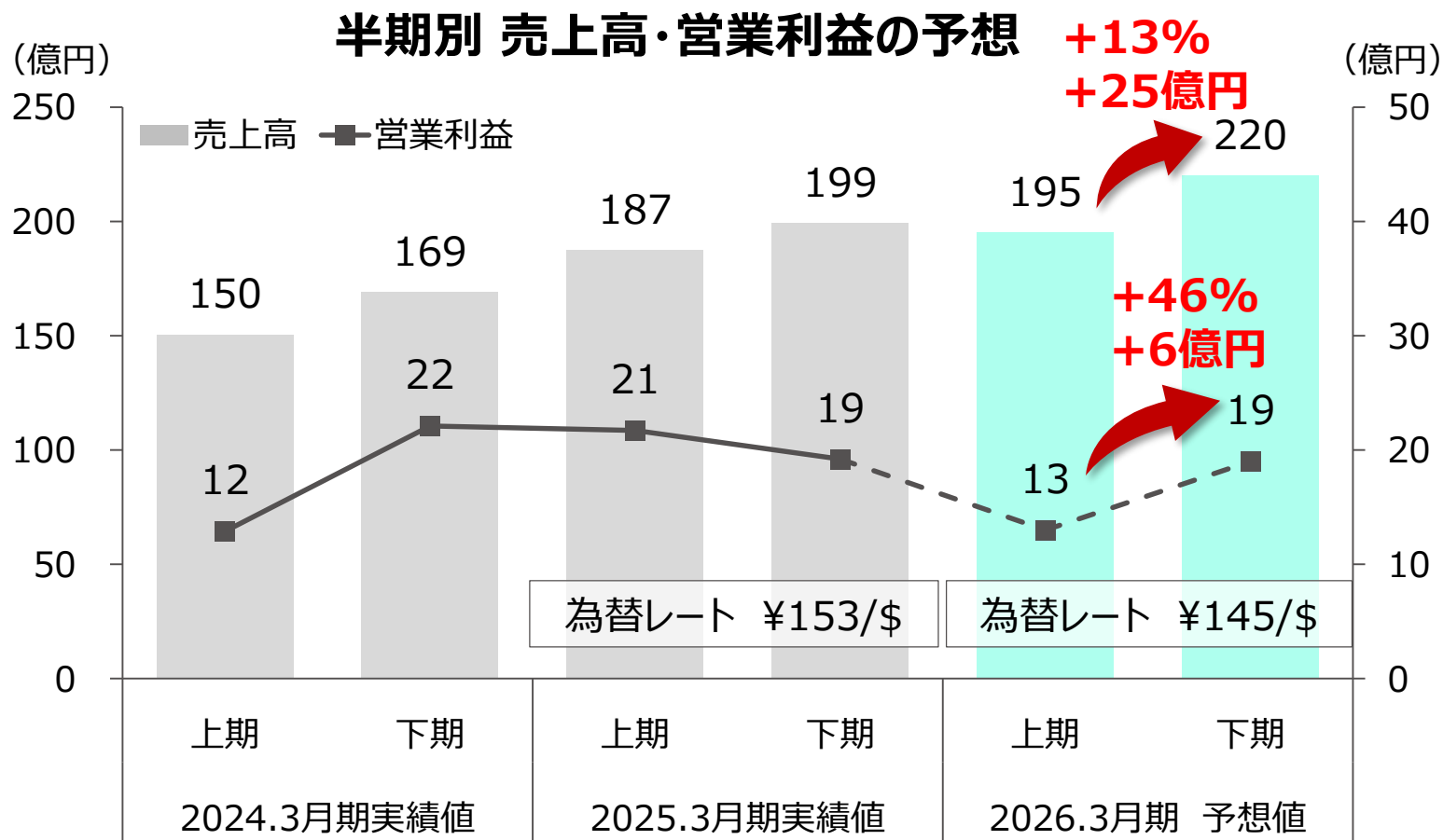
- 半導体市場は、生成AI関連需要を中心に成長が継続する見込み。
- 2026年3月期の売上高は、過去最高の415億円、+28億円（+7%）を予想。
- 中期経営計画に基づく大型設備投資は2025年3月期に完了。
- 大型設備の稼働開始による固定費上昇の通期影響を織り込み、営業利益32億円、当期純利益23億円を予想。

(億円)	2025.3月期 実績値	2026.3月期 業績予想値	増減額	増減率
売上高	386.6	415.0	+28.3	+7%
営業利益	41.0	32.0	△9.0	△22%
経常利益	39.9	30.0	△9.9	△25%
当期純利益	32.7	23.0	△9.7	△30%
為替レート (USD)	¥153/\$	¥145/\$		

- 生産能力増強/技術開発などの費用増 + 30億円、円高影響△2億円があるものの、売上の増加と増産効果による利益増加影響 + 23億円により、32億円の営業利益を計画。

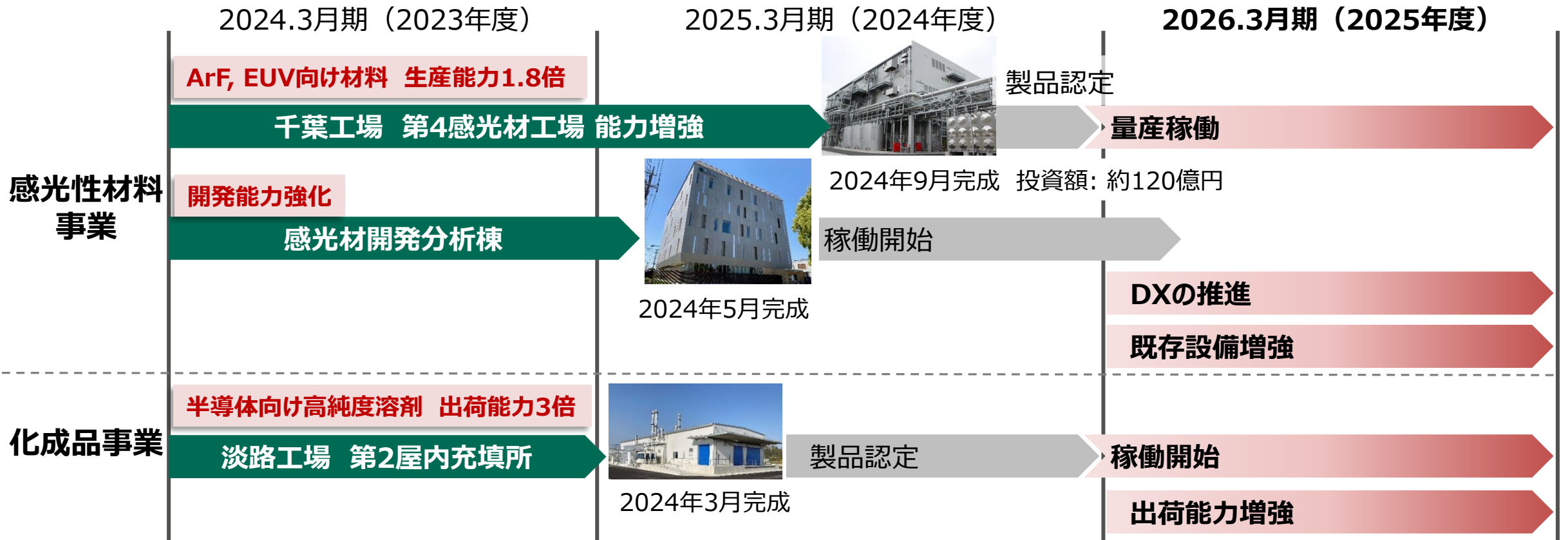


- 先端半導体向け材料を中心に売上成長が継続。
- 通期では大型設備稼働に伴う固定費上昇により減益を見込むものの、下期単独では売上上昇に伴い、前年並みの利益回復を見込む。

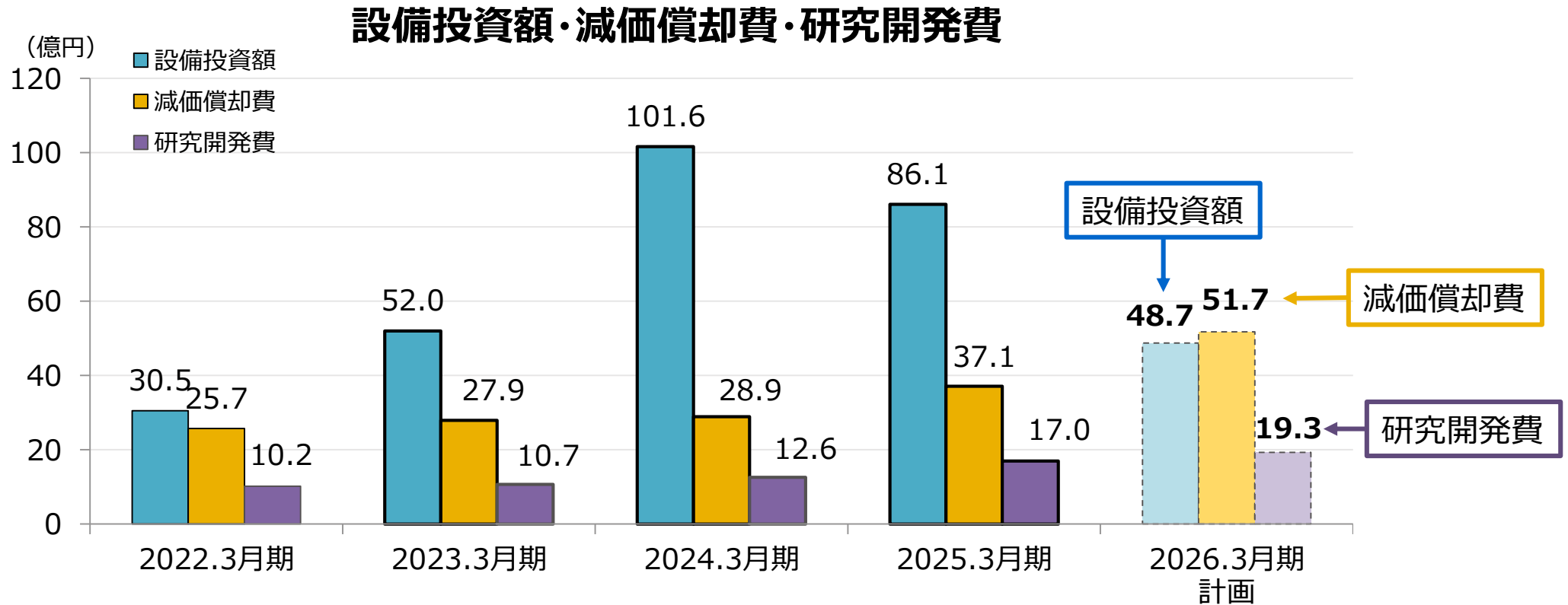


設備投資の進捗と予定

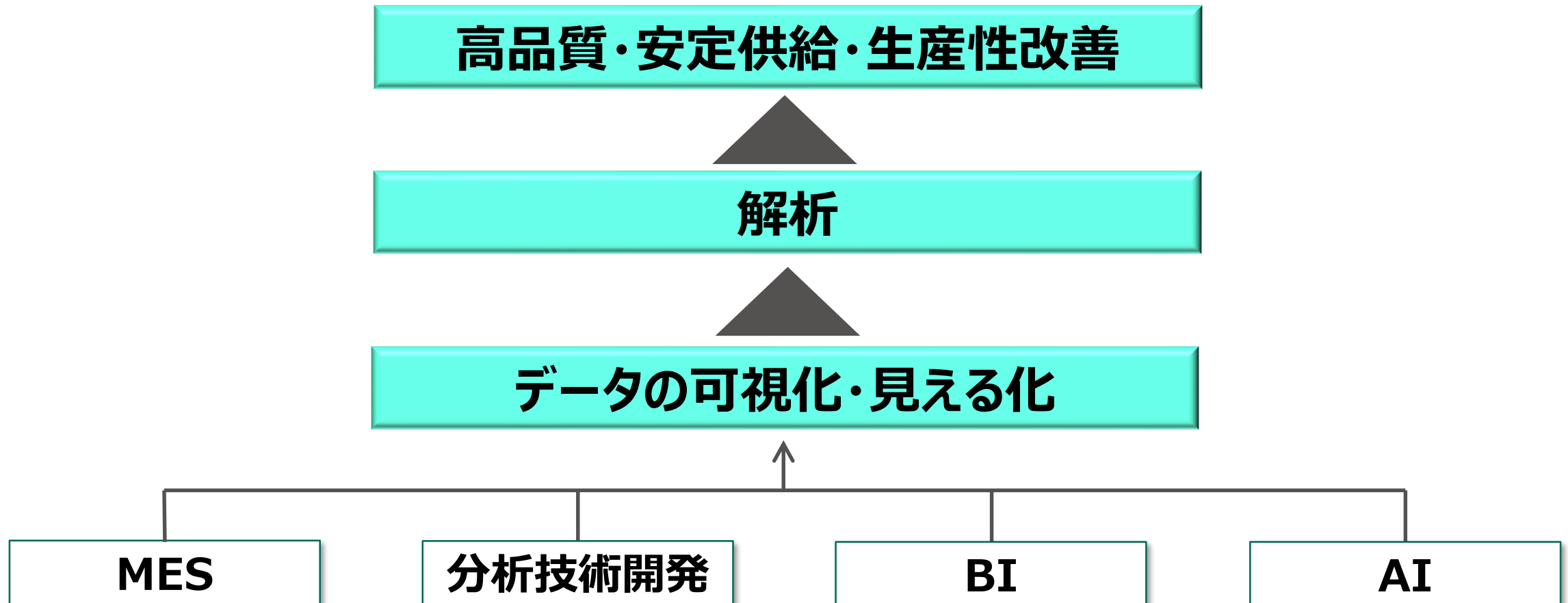
- 2024年9月にArF、EUV向け材料の生産ライン（第4感光材工場能力増強）が完成し、Beyond500（現中計）の大型設備投資はすべて完了。
- 26年3月期は完成した設備を活用し、投資効果拡大を狙う。



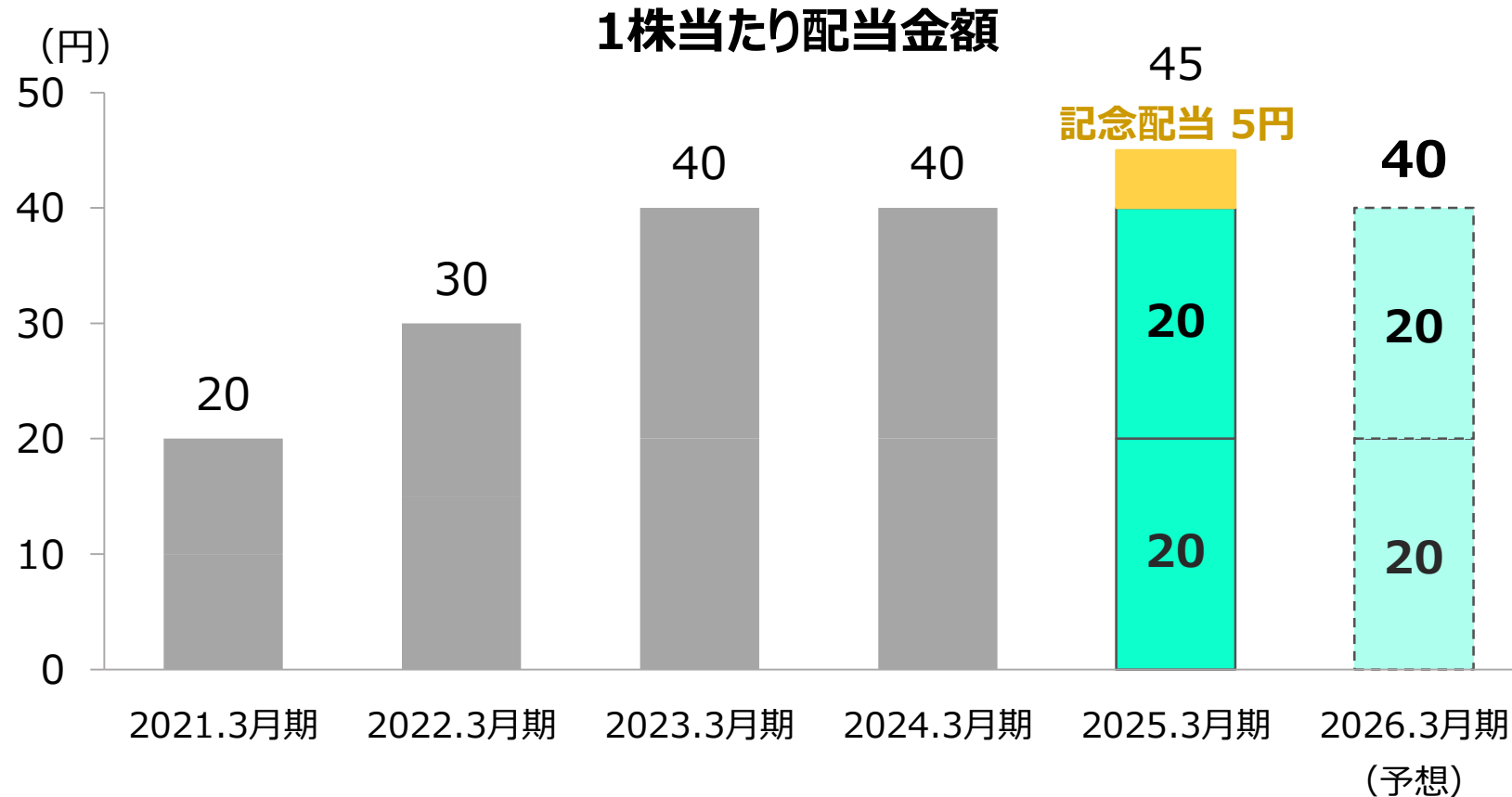
- 25年3月期：感光材開発分析棟（5月完成）、第4感光材工場の能力増強（9月完成）などにより86.1億円の設備投資を実施。大型投資はすべて完了。
- 26年3月期：DXの推進と既存設備増強などの設備投資、48.7億円（前期比△37.3億円）を計画。減価償却費は、新規設備の稼働開始により51.7億円を予定。



- 製造データの見える化、分析技術の高度化により、製造品質改善のデータプラットフォームを整備。
- さらに各種データをBIにより、わかりやすく共有することによって生産性改善に繋げる。



- 25年3月期は、中間配当20円、期末配当は創立70周年記念配当5円を含め25円、年間配当合計45円。
- 26年3月期は、中間、期末配当ともに20円、年間配当合計40円を予想。



1. 2025年3月期 通期 決算概要

2. 2026年3月期 通期 業績予想

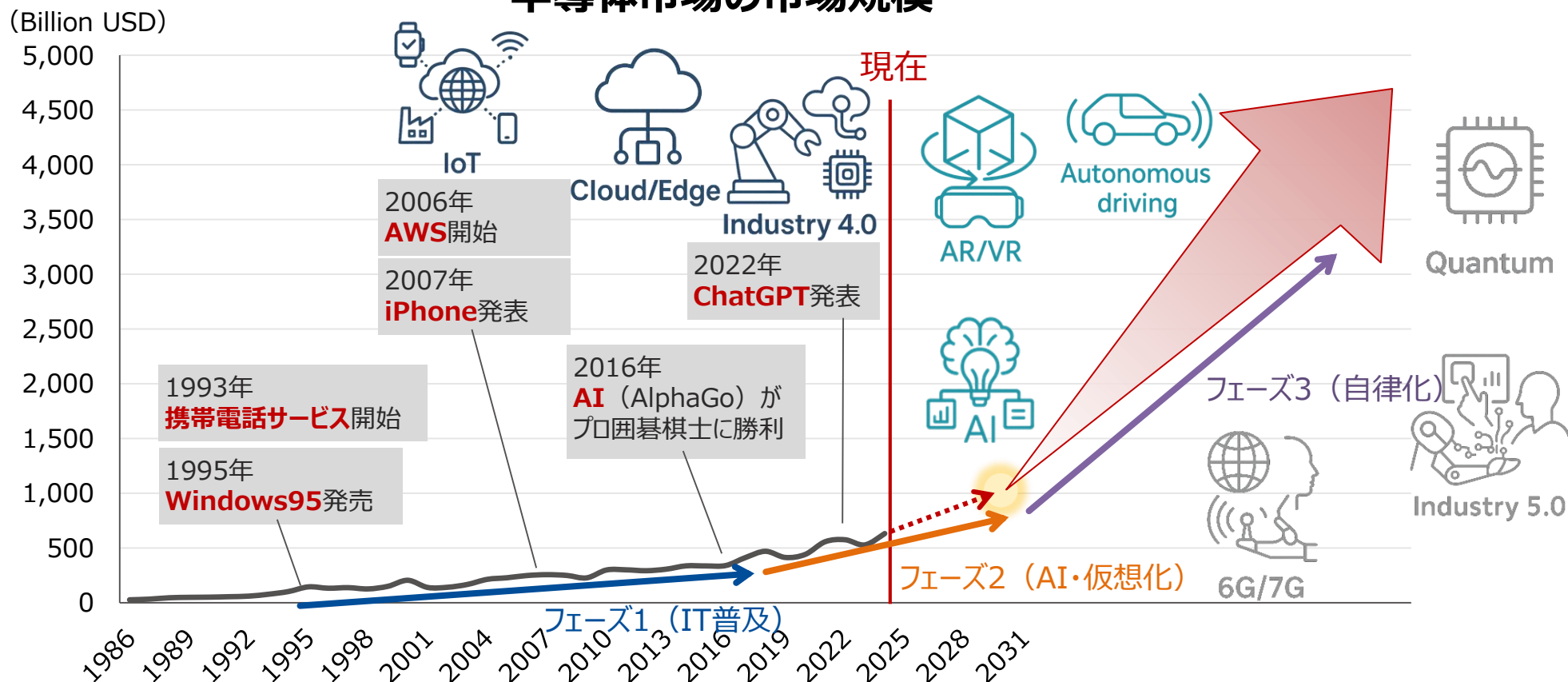
3. 今後の展望と中期経営計画の進捗

4. サステナビリティ活動

半導体市場の成長と今後の見通し

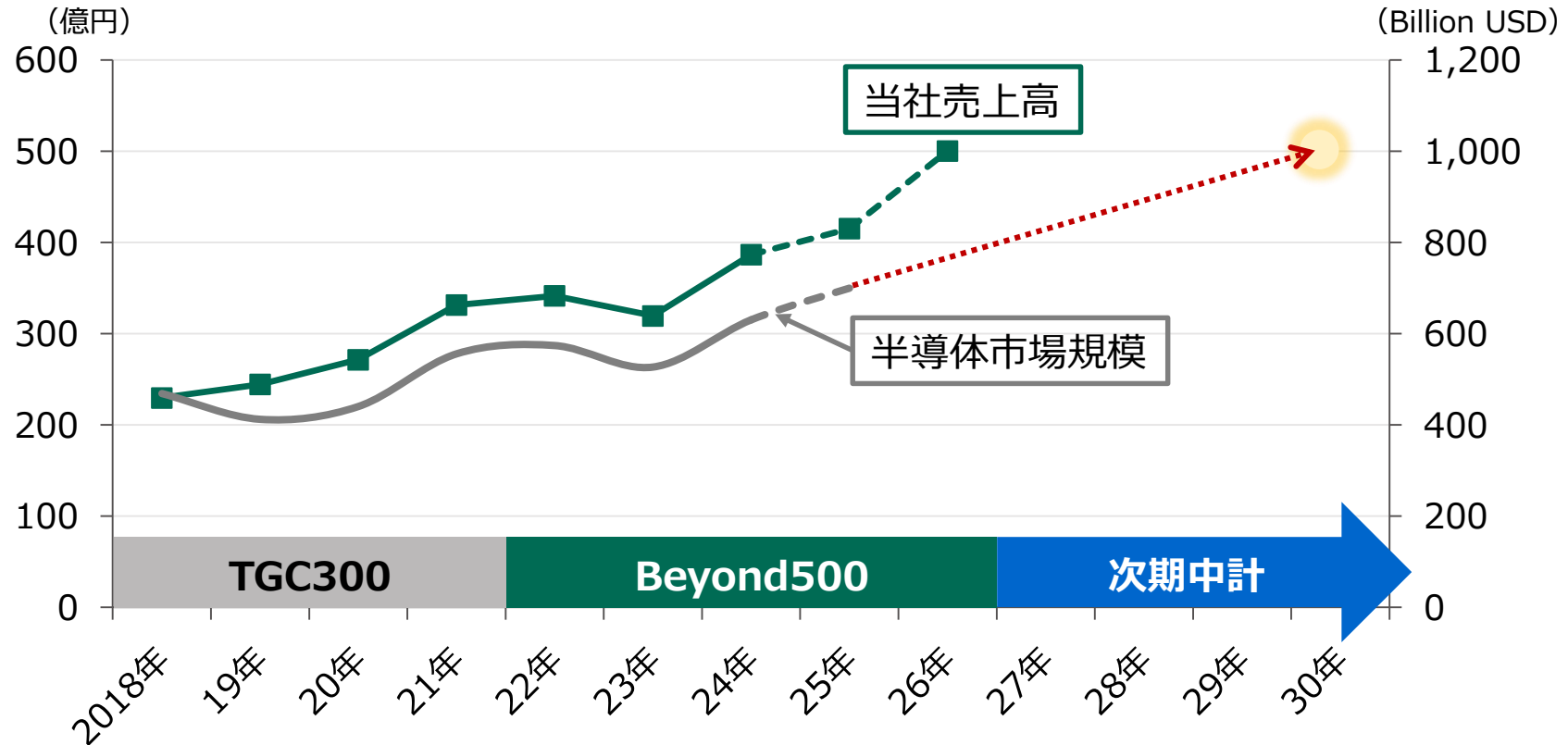
- 半導体市場は過去40年間で30倍に拡大（年平均成長率9%）。
- 2024年は+19%、2025年は+11%成長の予測。
- 今後も成長が継続し、2030年までには1兆ドル、2050年には5兆ドルに到達する見通し。

半導体市場の市場規模

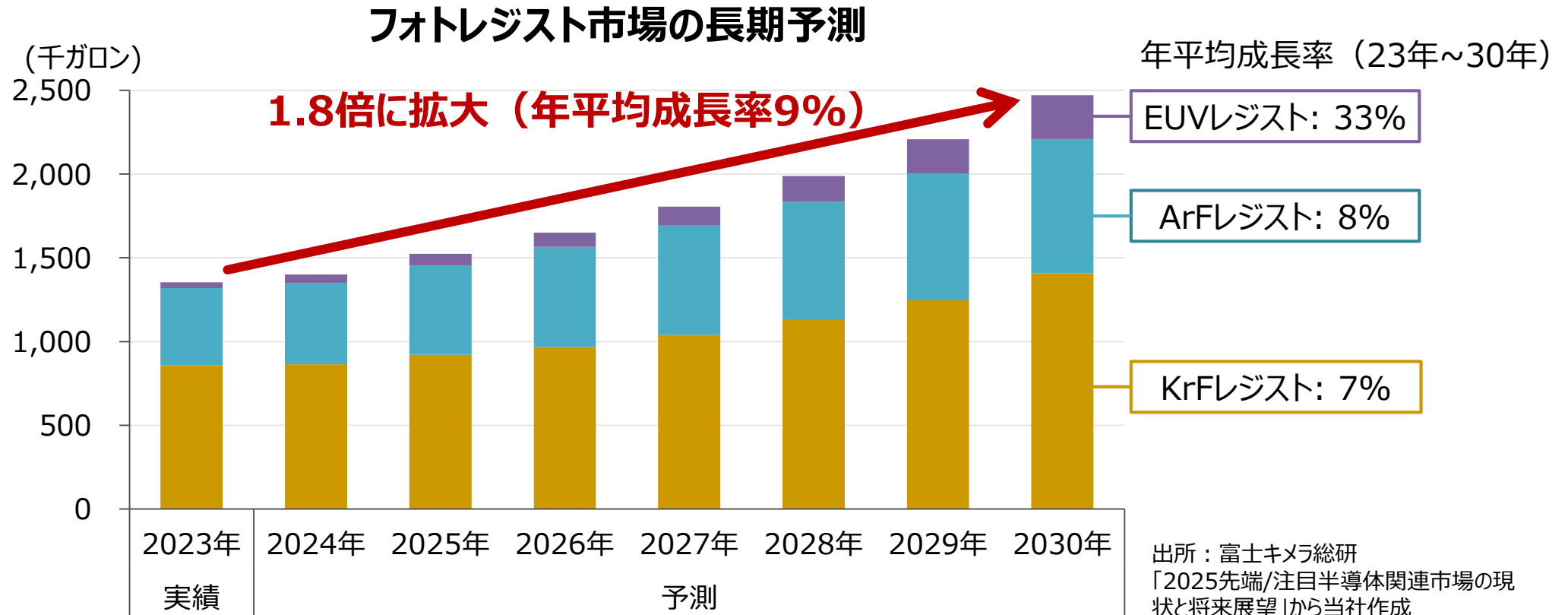


- 半導体市場の拡大に伴い、当社売上高は着実に成長。
- 今後も半導体の進化を支えるため、微細化や高集積化に対応する新規材料の研究開発、製造技術開発、品質管理の高度化、生産性の向上に取り組み、能力増強した設備を最大限活用し、高品質製品を安定供給。

当社売上高と半導体市場

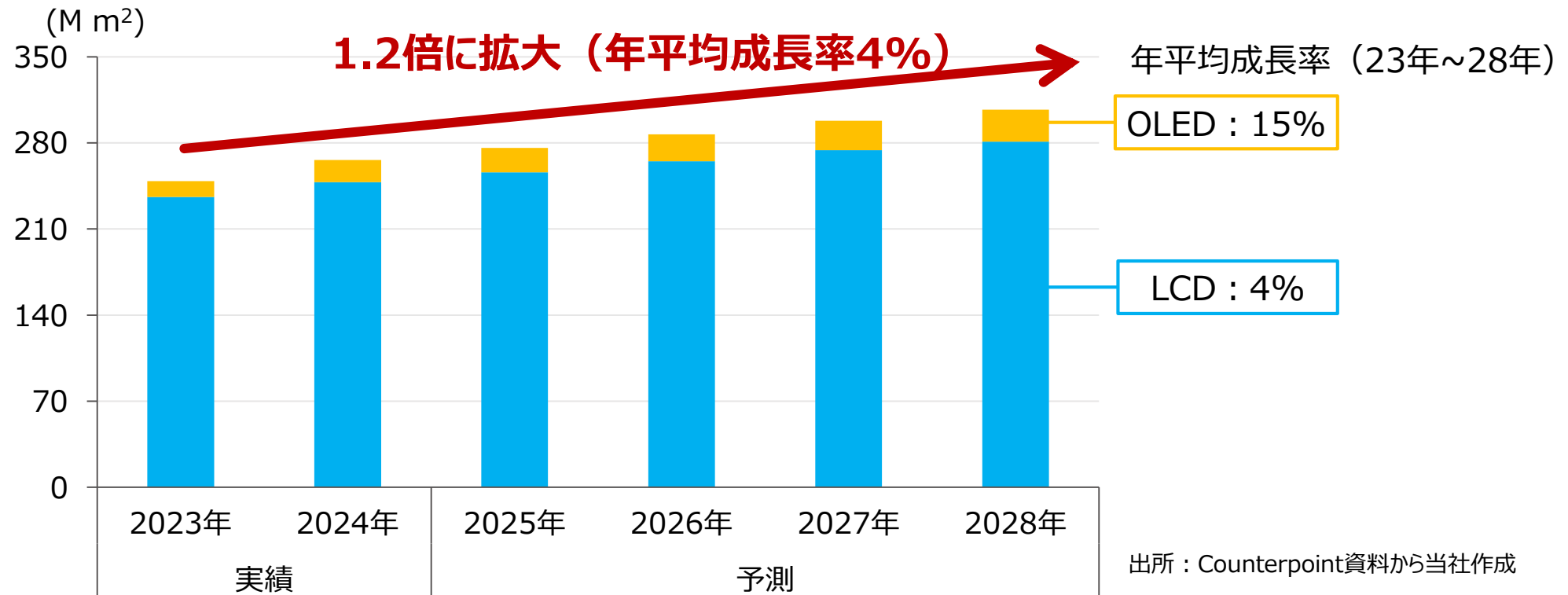


- EUV用レジストの需要量は、2023年~2030年に年平均成長率33%で7.5倍に成長。
- フォトレジスト（KrF+ArF+EUV）の需要量も2023年~2030年に1.8倍に拡大見込み。
- 千葉工場 第4感光材工場 能力増強の完成により、当社キャパシティも1.8倍に拡大。



- ディスプレイ面積需要は、年平均成長率4%の緩やかな成長が継続する予測。
- 2023年～2028年にかけて、面積需要は1.2倍に拡大見込み。
- TVの大型化や高精細品普及により、感光材/高純度溶剤の需要は拡大傾向。

ディスプレイ市場の長期予測



中期経営計画「Beyond500」の大型設備投資は完了



香料工場 管理分析棟完成
(2023年8月)



淡路工場 第2屋内充填所 完成
(2024年3月)



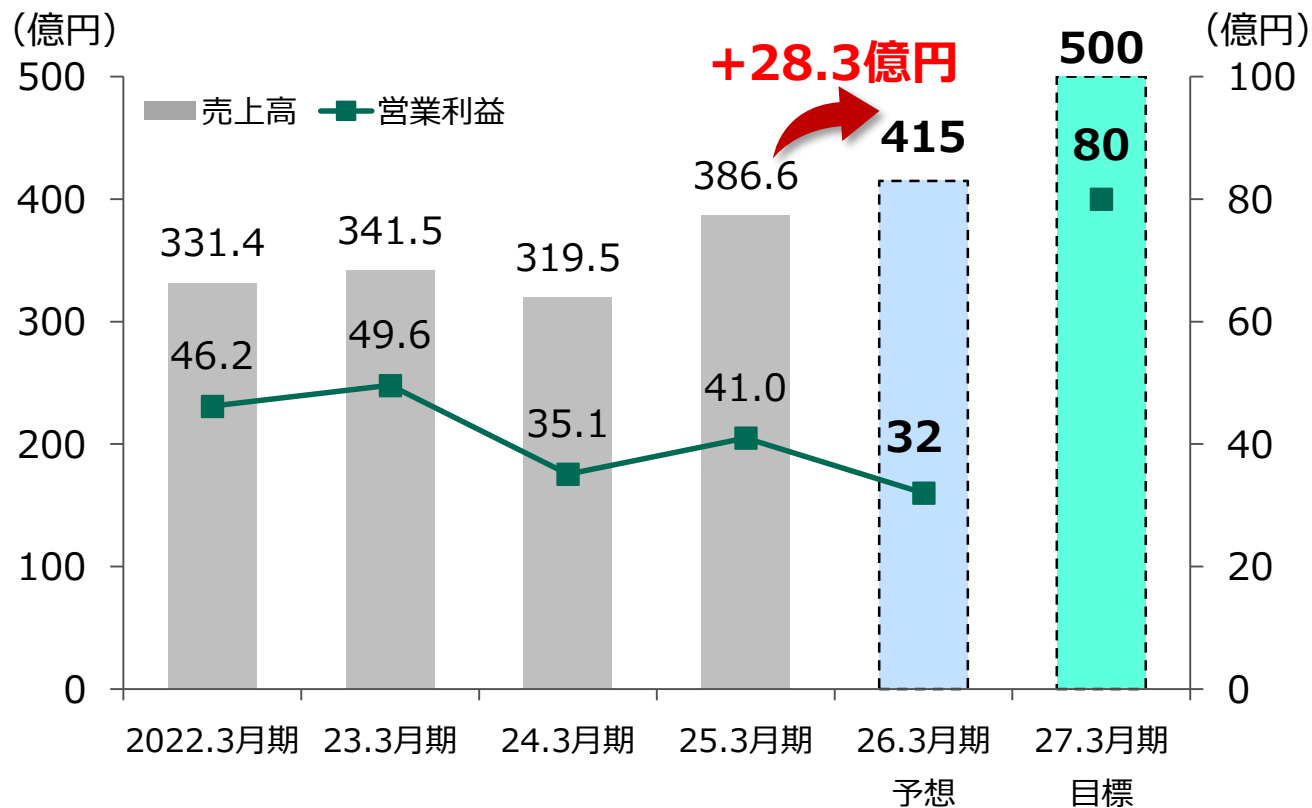
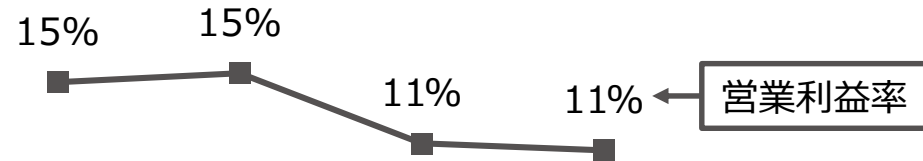
千葉工場 感光材開発分析棟 完成
(2024年5月)



千葉工場 第4感光材工場
先端品生産ライン 完成
(2024年9月)

- 2023年8月
香料工場 管理分析棟 (投資額：約3億円)
分析能力・職場環境の整備・安定供給の向上
- 2024年3月
淡路工場 第2屋内充填所 (投資額：約10億円)
半導体向け溶剤、従来比約3倍の出荷能力増強
- 2024年5月
千葉工場 感光材開発分析棟 (投資額：約30億円)
研究開発、品質管理を統合し、製造技術力・分析体制を大幅強化。
- 2024年9月
千葉工場 第4感光材工場 能力増強
(投資額：約120億円)
先端品向け材料の生産能力を1.8倍※に拡大
※2022.3月期比

業績目標と進捗



Beyond500期間

Beyond500 (2027.3月期)
売上高：500億円
営業利益：80億円 (営業利益率16%)

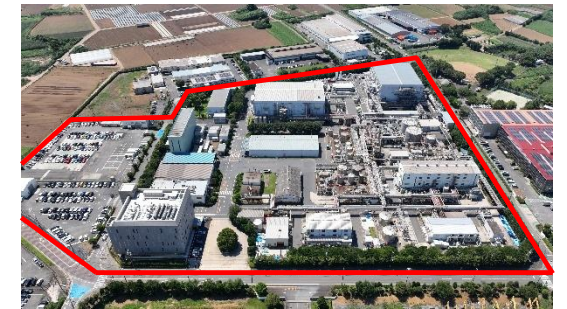
- 半導体市場は中長期的な成長が継続する見込み。
- 供給拡大に向け、26年3月期から新規設備の量産稼働が開始。
- 完成した設備を活用し、投資効果拡大を狙う。

今後の成長に向けた設備投資計画と助成金交付認定

- さらなる供給能力拡大に向け、2027年～2029年に設備投資を計画。
- 経済産業省の経済安全保障に基づく助成対象事業に認定（2024年11月29日）。
- 感光材・ポリマーの生産能力は、2024年度比1.4倍に拡大見込み。
- 将来の半導体需要増加を見据えた投資を積極的に行い、最先端品質を満たす安定供給体制を狙う。

供給確保計画（助成対象）の概要

	生産場所	供給開始 (予定)	生産能力（予定）	投資額 (予定)
感光性材料 セグメント	千葉工場	2029年4月～	感光材・ポリマーの生産能力を2024年度比1.4倍に拡大	約211億円
化成品セグメント	市川工場	2027年9月～	感光材・ポリマーの安定供給体制を構築するために、高純度溶剤の生産能力を強化	最大助成額 約70億円
	淡路工場			



千葉工場



市川工場



淡路工場

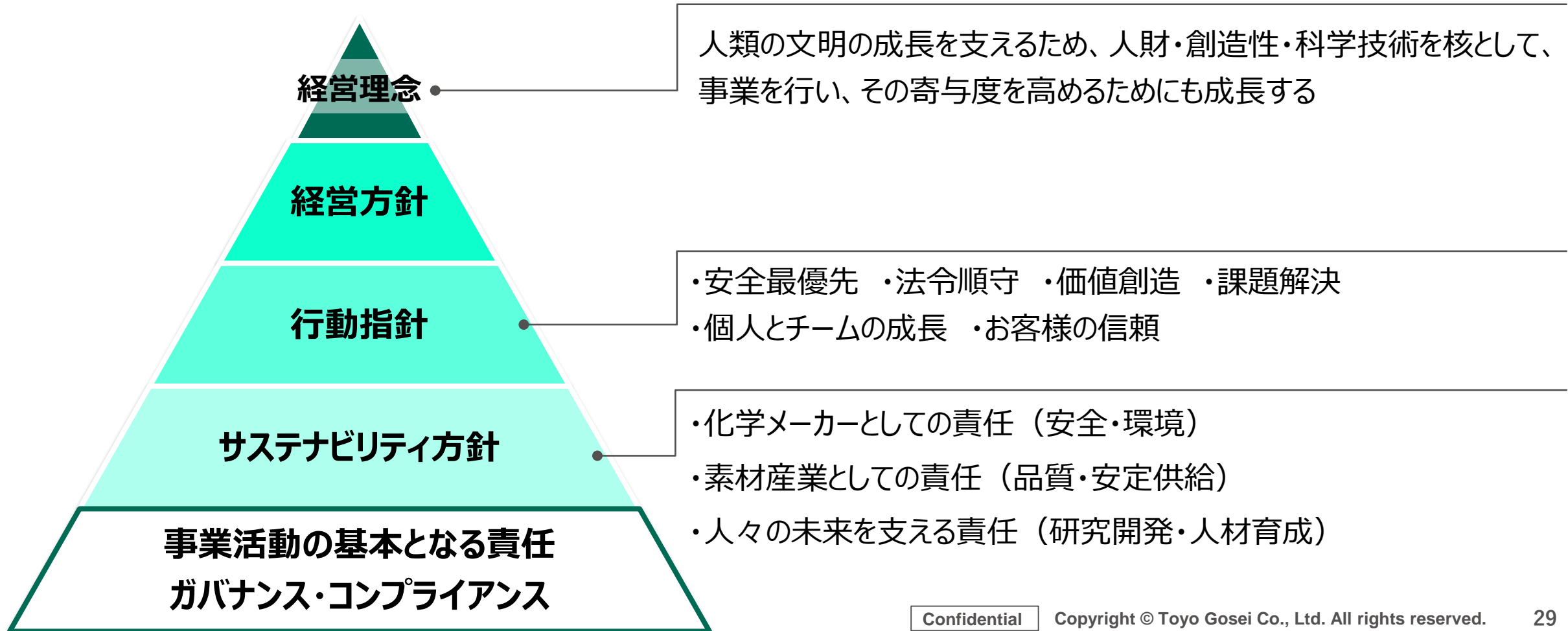
1. 2025年3月期 通期 決算概要

2. 2026年3月期 通期 業績予想

3. 今後の展望と中期経営計画の進捗

4. サステナビリティ活動

- 東洋合成は、経営理念である、「人類の文明の成長を支えるため、人財・創造性・科学技術を核として、事業を行い、その寄与度を高めるためにも成長する」ことを基本的な考え方とし、その実行を通じて持続可能な社会への貢献を目指します。



【環境】 地球環境や社会の持続性の観点から、事業活動に伴う温室効果ガス排出の削減や環境影響低減を推進。

【人的資本】 多様性を許容する働きやすい環境を整備し、人材育成を通して、事業成長を支える組織づくりを促進。

取り組み内容

気候変動・環境影響

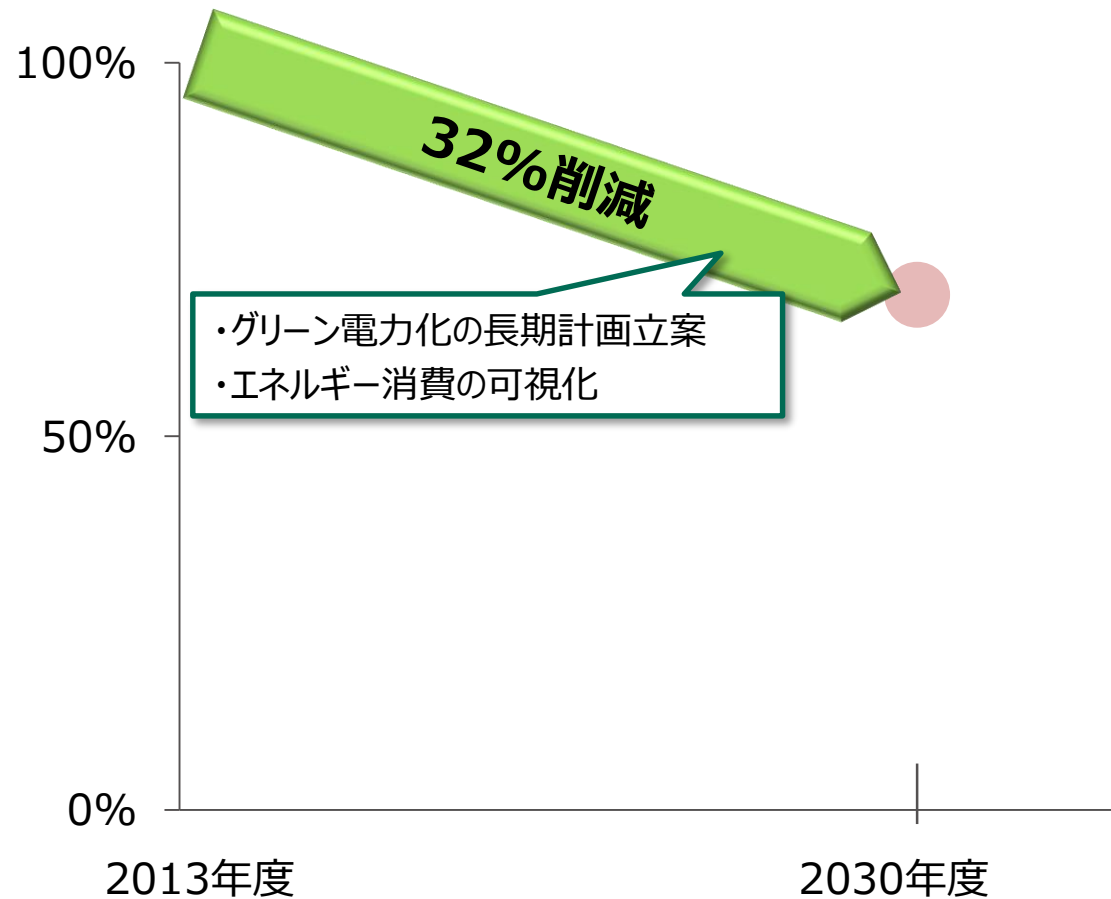
- 目標達成までの課題、期日などの明確化に向け、「ロードマップ」や「アクションプラン」の策定
- Scope1+2の目標開示とScope3の算定
- 消費エネルギーの可視化とエネルギー消費の最適化
- 製品のカーボンフットプリント算定に向け、算定のシステム化を実施。
- 廃棄物削減、溶剤リサイクルによる再資源化を推進

人的資本

- 本音のコミュニケーションと個性を尊重する人材育成
- 価値観や経験の違いを活かせる企業文化の醸成
- 自律的に意思決定できる人材と組織の強化
- 個人成長が、チームの成長に繋がる組織マネジメント

- 目標の実現に向け、各施策を実施。

温室効果ガス削減目標



目標

Scope1+2 : 2030年度までに32%削減 (2013年度比)

省エネ対応 : エネルギー使用を原単位で前年比1%削減

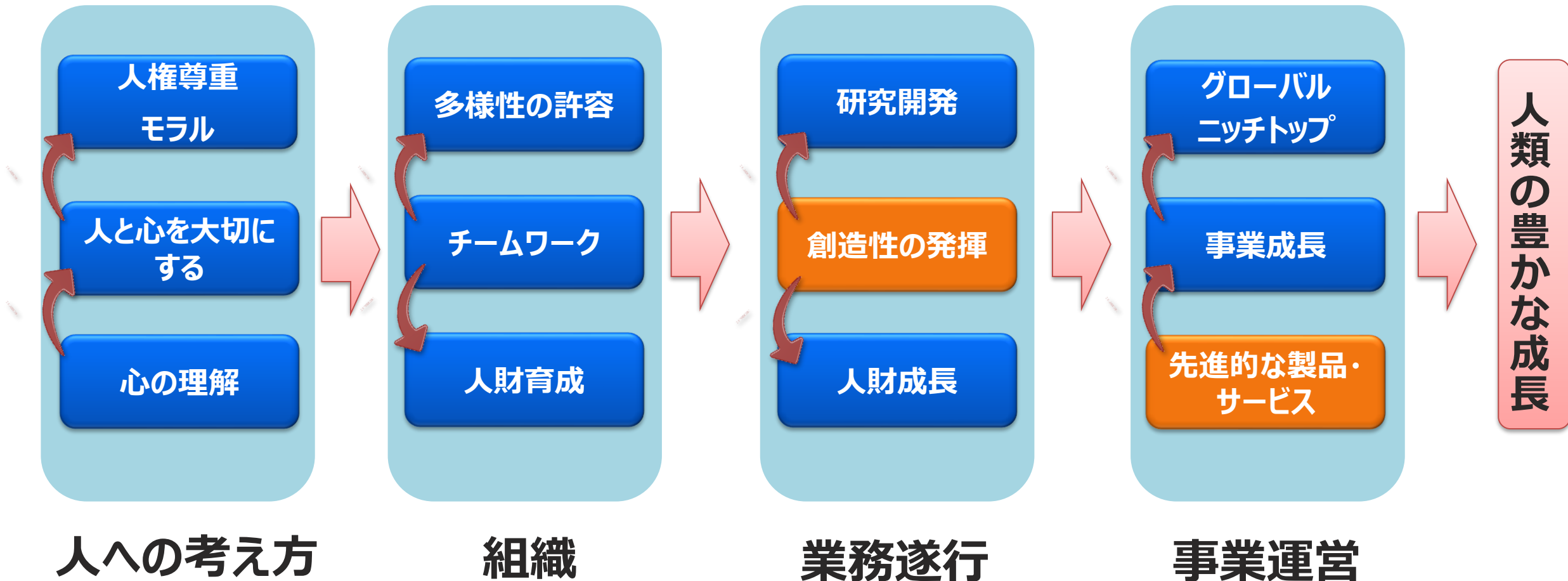
これまでの活動内容

- 効果的な省エネ施策と効果測定に向け、装置ごとのエネルギー消費の可視化。ロードマップを策定。
- 淡路工場では、太陽光に加え、グリーン電力使用比率を50%まで向上。



淡路工場のグリーン電力（太陽光パネル）設備

- 人への理解を深め、心理的安全性を作り出し、価値観やバックグラウンドの多様性が許容される文化の醸成。
- 創造性が発揮され、持続的な人材成長と事業成長に繋げることができる組織を目指す。



- 人を大切に、一人ひとりの個性を尊重する、安心安全なやりがいのある職場づくりを推進。

■ 安全文化醸成ワークショップ

「一人ひとりが実感できる安全、自分ごととして捉える文化」の実現に向け、全工場で開催。

安全文化の醸成と社員エンゲージメントの向上に向けて活動を継続、人材育成の基盤を整備。

関係性の構築
(本音での対話)



組織能力強化
(真の課題解決)



人材育成
(未来への行動変容)



■ 従業員エンゲージメント

創立70周年イベントで、当社の成長経緯を振り返り、事業成長に向けた部門を超えた交流によって、一体感の醸成。

■ 職場環境の向上

開発分析棟（24年5月完成）に開発部門が集結し、知の共創環境を整備。

■ エンゲージメントサーベイ

毎年の定点観測により、改善施策を創出。



- 個人の成長、成長する個人の共創（チームワーク）によって、組織成長する姿を目指し、各種施策を展開。

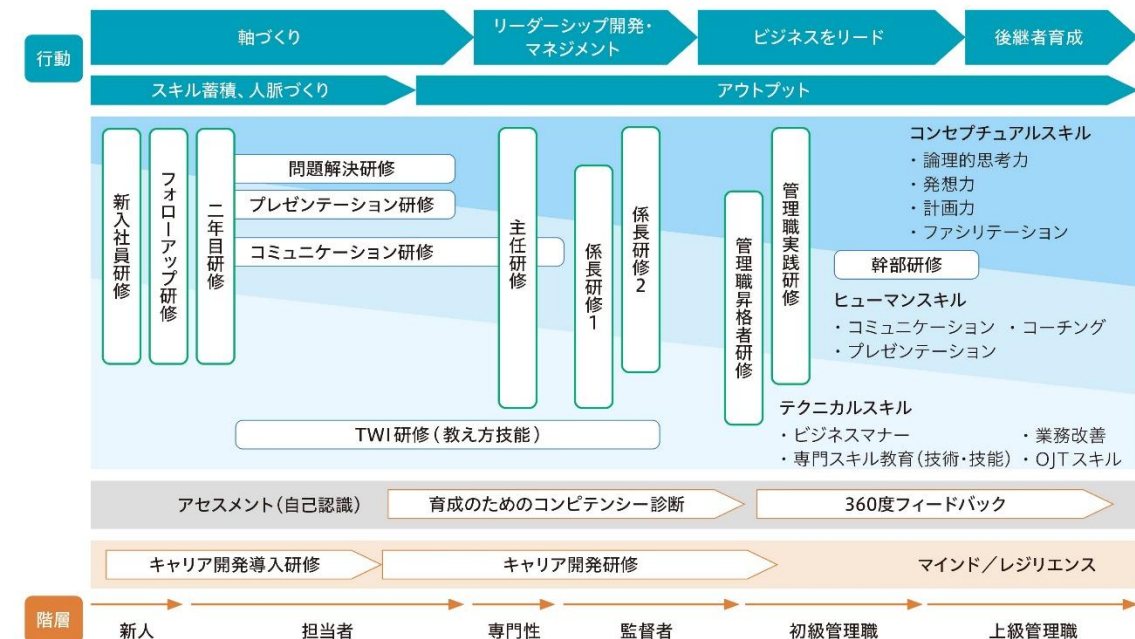
■ キャリア開発

- キャリアを考える機会を定期的につくり、自分の個性と強みを活かす自己啓発を支援。
- 一人ひとりの自律的な学びとキャリア自律のために、Will・Can・Mustを活用したキャリア研修を実施。

■ 長期の成長支援

- 新入社員から上級管理職に至るまで、各段階で必要なスキルを定め、学習・経験する機会を提供。
- 企業の成長に併せ研修を拡充し、勤続年数に関わらず、求められる役割に応じたマネジメント研修を実施。

研修体系図



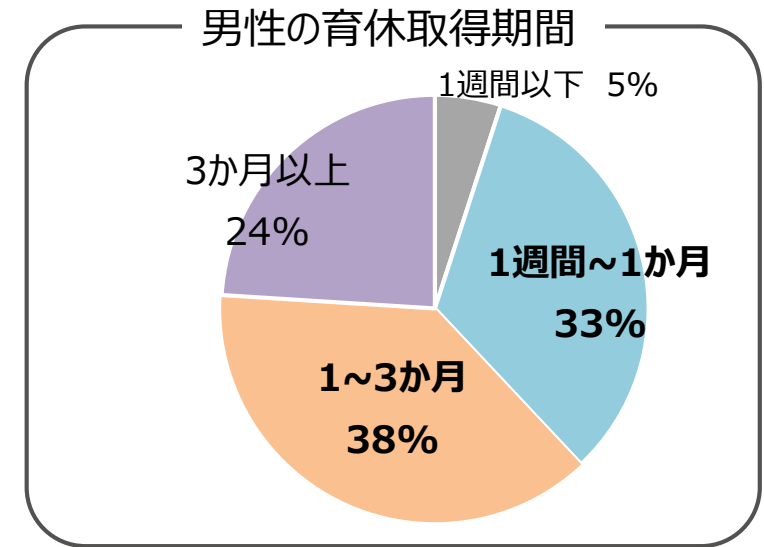
■ 人権、コンプライアンス研修

全役員・従業員を対象に、人を敬い尊重する「人権」への正しい認識を深めるため、ロールプレイの実践型研修により、人の気持ちを体感する機会を創出。



■ ダイバーシティ・エクイティ & インクルージョン

- 体制強化とともに、子育てシェア会、介護セミナーなどの社内研修やセミナーを開催。
- 男性社員の育児休業取得率は80.8%に向上（前期比+23.1pt）



■ 外部評価

健康経営優良法人2025（大規模法人部門）に2年連続認定



独創的な視点で世界へ

Individual Development, to the global Chemical



東洋合成工業株式会社